

元学生の方がしっかりしている！

元学生から、次のような近況のメ - ルが入った。

【なんとか、(担当の方の)少しでも力になりたくて。まだまだこれから勉強です。

(担当の方は)自分の思いを表出することがなかなか難しい。無表情で一言も声を発しなかった。でも、わたしが係わらせていただいて数回はわたしの顔を見る度泣いていました(今ではとてもいい笑顔をなさいます)。

(担当の方と)係わっている時はとても楽しくて…。係わり以外にも絵手紙をしたり、こっそり寒天など作ってもって行って一緒に食べたり...(すみません。内緒です^\_^;)。

でも、時々通勤帰りに車を運転しながら、泣いてしまいます。(担当の方の)気持ちがわかるだけに…。心に寄り添いたいとずっと思ってきました。今はそれに加えて、もっと力をつけて、(担当の方を)よくしたいなと痛感します。魔法をかけてあげられたら...と時々思います。】

励ますつもりで、次のように私は返信した。

【あまり「何かして上げなければ」と思い詰めないように。まず、寄り添い続けること。また内緒で「寒天」を食べればいい(^o^)。そうした係わり合いから、ヒントが見つかるかもよ。実生活に即した指導こそ、担当の方の生きるエネルギー - になりますものね。孤独感を取り除くことこそ、大事かなと思います。焦らず、焦らず、側に居続けてあげてください。】

すると直ぐに、次のように、元学生から返信があった。

【学生の時に学んだ“ Not doing,but being ” の言葉が今でも心に残っています。まさに先生がおっしゃられたこと、何かをすることではなく、ただそばにいること、寄り添うこと...。

「変えられるものを変える勇気を。変えられぬものを静かに受け入れられる心の穏やかさを...」、そんな風に生きたいと思っています。】

何のことはない、元学生の方が私よりきちっと大事なことを掴みながら仕事をしている。メ - ルで励ますまでもなかったよう.....、m(\_ \_)m

( 2005 年 6 月 21 日 記 )